

町民起点で 共に創る元気な町！

この度の任期満了に伴う高森町長選挙におきまして、多くの町民の皆さまのご支援をいただき、三期目の重責を担わせていただくこととなりました。

これまで、二期 8 年間、私を支え導いてくださいました町民の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、三期目も精一杯努めますのでご協力をお願いいたします。

さて、南信州地域は、人口減少とそれに伴う少子高齢化が進んでいます。また、生活様式の変化や個人の考えを尊重する社会の風潮は、人が助け合いながら生きていくための地域への「責任」や「負担」への意識を希薄化させ、その結果、自治会加入率の低下や消防団員の定員割れ、伝統芸能の担い手不足など、「共助」を大切にしてきた社会に大きな変革をもたらしています。さらに、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を控え、首都圏との時間距離の短縮に大きな期待が膨らむ一方、高速交通網を活かす取組みや、それに伴う新たな開発、土地利用、景観の維持など様々な課題を抱えています。また、円安に伴う「物価上昇」、「物価上昇に追いつく賃金のベースアップ」、「企業の人材不足」など、地域の社会経済活動も急速な変化に振り回されるなど、各方面で難しい行政運営が求められています。

一方で、「まちづくり」とはこうした社会の変革に対応し、地域に暮らす皆さまが、ふるさとを愛し、人とのつながりや仲間を尊重し、地域の担い手として行動してこそ成り立つものです。私は、町長としてお世話になってから 8 年間、「地域人財育成」をマニフェストの柱とし、高森町の将来像「なりたいあなたに会えるまち～日本一のしあわせタウン高森～」の実現に向け、町民の皆さまの自己実現はもちろん、「人」と「人」、「人」と「社会」のつながりを大切にしたまちづくりの担い手育成に努めてきました。社会人の学び舎として始めた「南信州みらい創生塾」では、学びや研修のターゲットを地元で働く若者に絞り、この地域で働くことの意義や地域を守ることの大切さを学ぶ一年間を通した研修プログラムを実施、その結果、各方面でまちづくりを自分事として捉え、未来に向かって活躍が期待できる多くの「人」が育ってきていると実感しています。また、小中学校では、総合の学習の時間を活用し、未来の大人たちが町の課題解決、町の PR に様々な形で取組んでくれています。小中学校でのこうした取組みを一步前に進めた「南信州 SBP クラブ」では、「柿丸くん焼き」を考案、各種のイベント販売などを実施し、ビジネス手法を学びながら地域活性化に取り組んでいます。地道ではありますが、今後も試行錯誤し様々な人財育成プログラムを実施します。

一方、リニア新時代に向け、地域経済が活性化して行くことが重要です。「質の高い農産物の適正価格での販売」、「新たな産業づくり」、「地域産業の価値向上」など積極的にお手伝いさせていただくつもりです。

こうした背景から、三期目も「地域人財育成」を公約の柱としつつ、「地域経済の成長」を重点項目としています。

やはりまちづくりの主役は町民の皆さまです。まちづくりが行政主導ではなく町民主導に変わり、行政は町民の皆さまを支える、これが私の考える「町民起点」のまちづくりです。

三期目にあたり、様々な諸課題から目を逸らすことなく、町民の皆さまと同じ目線で、町民の皆さまの「幸せ」や「高森町や伊那谷の将来」のため、マニフェスト（公約）実現に向け、これまで同様、声を聴き、現場を視て、町民の皆さまと一緒にまちづくりを進め、微力ながらお寄せいただきました期待と信頼にお応えしたいと決意を新たにしています。

今後とも、これまで同様、変わらぬご指導とお力添えをお願い申し上げます。

町民の皆さま方のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

令和8年1月

高森町長 壬 生 照 玄